

北海道浮魚ニュース

平成 15 (2003) 年度 5 号 (通巻 No.147)

2003 年 6 月 30 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2003年6月23日～6月27日
 - ・調査海域：道南太平洋（渡島半島沖～日高沖～下北半島沖）
 - ・調査船：金星丸（イカ釣機5台、イカ用集魚灯20灯装備）
- 昨年（2002年6月24～28日）のデータと比較しました。

分布密度は低く、魚体サイズは北海道側で昨年よりも大きめ。

1. 水温分布（図1、2）

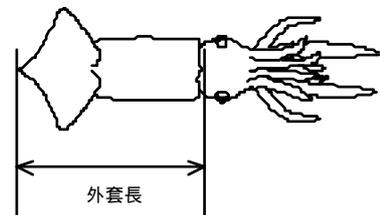
表面水温は、11.8～15.3 の範囲にあり、渡島半島東側の St.1 と St.16 では昨年と同程度の値を示し、下北半島東側の St.8 と浦河沖の St.15 では昨年よりも 1.0 から 1.5 低い値でした。深度 50 m 層の水温は、St.15 で昨年よりも 1.2 高く、他の点では昨年並みから 1.3 低い値でした。

2. 分布密度（図1、2、表1）

調査を行った3地点（St.16 は時化のため漁獲試験中止）の CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）は、1.3～10.2 の範囲（昨年：0.5～10.4）にありました。St.1 を除く各点で昨を下回りました。また、全点の平均 CPUE は 4.6 であり、平成 8 年以降のデータと比較すると、昨年と同様に低い値でした。

3. スルメイカの大きさ（図1、2、表1）

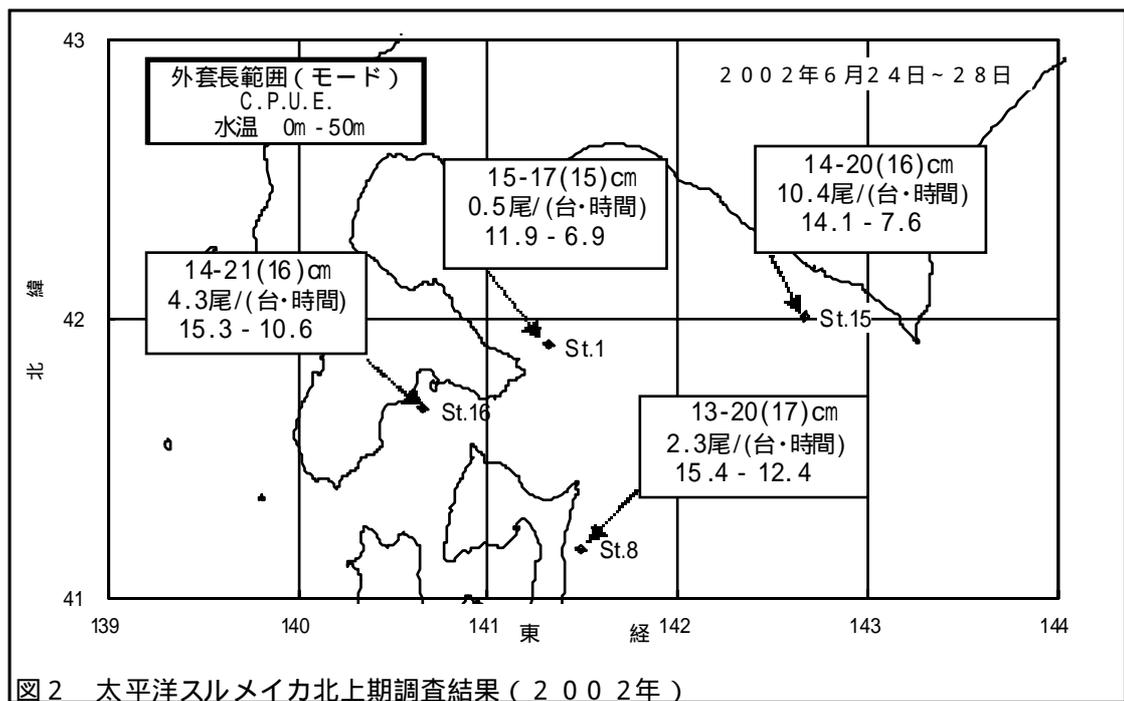
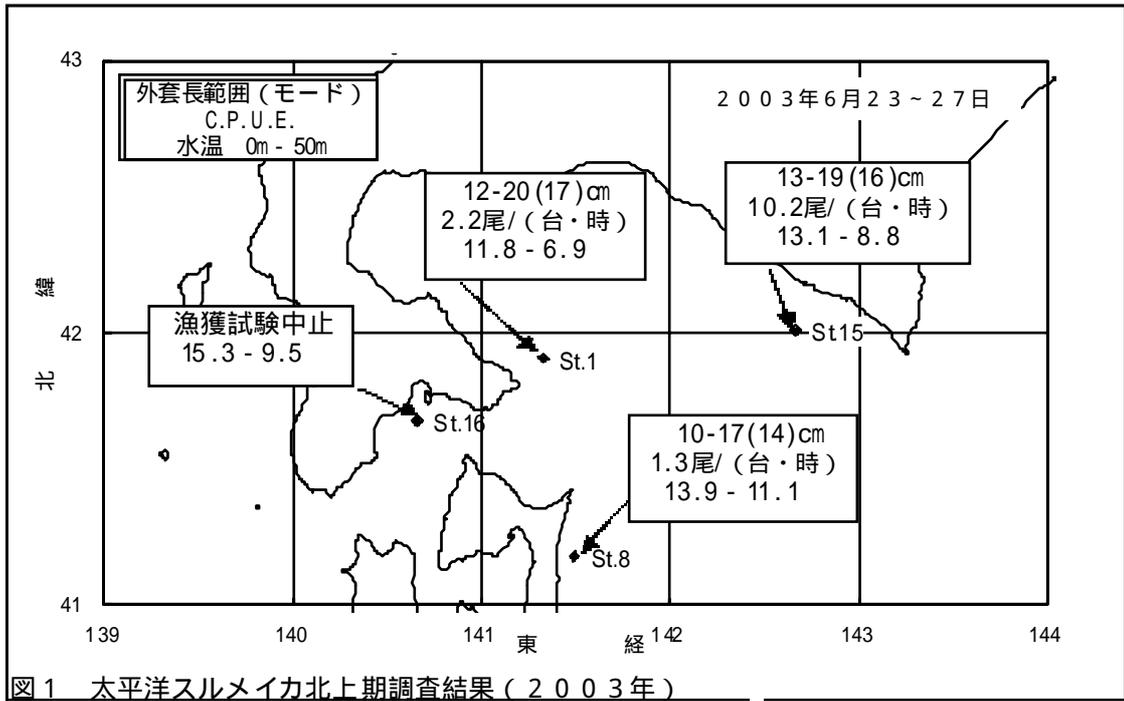
スルメイカの外套長（胴長）は、調査点全体で 10～20cm（2002 年 13～21cm）の範囲にありました。モード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は 14～17cm にあり、2002 年（モード 15～17cm）に比べると、St.8 で 3cm ほど小さく、St.15 では昨年並み、St.1 では 2cm 大型でした。



4. まとめ

道南太平洋におけるスルメイカの分布状況は、昨年と同様、魚群密度が低い状態にあると考えられます。

（文責：函館水産試験場資源管理部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991）



	1996(H8)	1997(H9)	1998(H10)	1999(H11)	2000(H12)	2001(H13)	2002(H14)	2003(H15)
4調査点の 平均C.P.U.E. (尾/台・時間)	7/4-19	7/1-9	6/29-7/7	6/28-7/8	7/3-7	7/2-5,9-13	6/24-28	6/23-27
外套長の範囲 (cm)	11-27	12-26	12-24	14-25	12-20	9-24	13-21	10-20
外套長モードの範囲 (cm)	15-19	16-24	15-17	14-18	15-16	15,19	15-17	14-17